

浜松市で活躍する

特集

アゲなオンナ偉人凶鑑

「とにかく何事もやってみよう」という「やらまいかスピリッツ」にあふれた輝く女性にクローズアップ。

がんに苦しむ女性を支える若き実業家

目指すのは街づくり 地域産業を支える「win-win」のハッピービジネス

日本人の死因のうち、3分の1を占めるといわれるがん。毎年約50万人の人々が、がんを宣告されるといふ。静岡県浜松市で専門美容室「ヘアサブライピア」を経営する佐藤真琴さんは、がんや脱毛症で髪が抜けてしまった人々を対象に人毛100%のカツラを販売している。一般的な医療用カツラの価格は数十万円。医療費の負担に苦しむ人々にとっては、なかなか手の届かない代物だ。きっかけは看護学校時代、実習先で白血病の女性と出会ったこと。カツラが買えない、たったそれだけのことで外出や人と会うことを避け、そのうち日常をも諦めてしまう現実がそこにあった。卒業後、もっと低価格で上質なカツラが作れないかと思い、単身中国に渡り独自のルートを開拓。交渉の末、1つ5万円程度という価格を実現した。これならパート勤めの主婦でも購入できる金額だ。店舗には、看護師・美容師の専門性をもったスタッフが従事し、病気の種類や進行に合わせたカツラを販売、カットを行う。もちろん、パーマやカラーでより自分好みのスタイルにすることもできる。単に「物」としてカツラを捉供するだけでなく、メンタル面のケアも含めたサービスを提供してくれるピアは、多くの不安を抱えるがん患者たちにとって心強い存在だ。ボランティアや慈善事業でなく、ソーシャルビジネスとして事業展開している点も支持される理由のひとつ。気負わず、ブティックで洋服を買うようにカツラを買う。病気を抱えながらもできるだけこれまでのライフスタイルを変えずに生きたいという願いを形にし、地域産業にとつて大きな力である、女性のワークライフバランスを支えている。

日本人の死因のうち、3分の1を占めるといわれるがん。毎年約50万人の人々が、がんを宣告されるといふ。静岡県浜松市で専門美容室「ヘアサブライピア」を経営する佐藤真琴さんは、がんや脱毛症で髪が抜けてしまった人々を対象に人毛100%のカツラを販売している。一般的な医療用カツラの価格は数十万円。医療費の負担に苦しむ人々にとっては、なかなか手の届かない代物だ。きっかけは看護学校時代、実習先で白血病の女性と出会ったこと。カツラが買えない、たったそれだけのことで外出や人と会うことを避け、そのうち日常をも諦めてしまう現実がそこにあった。卒業後、もっと低価格で上質なカツラが作れないかと思い、単身中国に渡り独自のルートを開拓。交渉の末、1つ5万円程度という価格を実現した。これならパート勤めの主婦でも購入できる金額だ。店舗には、看護師・美容師の専門性をもったスタッフが従事し、病気の種類や進行に合わせたカツラを販売、カットを行う。もちろん、パーマやカ



株式会社PEER 代表取締役

佐藤 真琴さん

2009年、一般社団法人ピア設立。静岡県浜松市生まれ、看護師。2008年度静岡県男女共同参画社会づくり活動に関する知事褒賞(チャレンジの部)、日経ウーマンオブサイヤー2009キャリアアクリエイト部門第5位受賞。経産省ソーシャルビジネス55選に選出。東海若手起業塾1期生。

ヘアサブライ PEER
☎053-585-0054
<http://team-peer.com>



インタビューこぼれ話は、
浜松市シティプロモーション
情報Webサイト「浜松の元気」

<http://www.hamamatsu-genki.jp/>

浜松の元気 検索



株式会社コルネット 代表取締役

高林 紫さん

静岡県に5店舗、移動販売車11台、東京2店舗、大阪、埼玉、広島に各1店舗を展開。さらに今年、ハワイにも進出する予定。

コルネット 本店
☎053-465-3188 <http://www.cornet.jp/>

生活苦が生み出した超B級グルメ。
愛情深き女社長。

きっかけは、パンの耳を揚げた子どものおやつ。

起業のアイデアは、主婦の暮らしの中にも転がっている。「あつあつの揚げパンに冷たいアイスのをせる」という新しいスイーツコルネットを発案した高林さんもその一人だ。女手ひとつで子どもを育て、仕事と家庭を両立させる多忙な日々。時間に追われる生活の中、息子に与えるおやつでさえ揚げたパンの耳に砂糖をまぶして出すくらいしかできなかった。そんなある日、その揚げパンにアイスに乗せてみたところ、意外なおいしさに驚いた。熱と冷という間逆の組み合わせ、その食感となんともしえない味わい。「これならいける！」直感的にそう思った高林さんは起業に向

かって動き出した。協力してくれるパン屋探してから始まり、試行錯誤は1年半。形になっていく楽しさを感じることができたという。販売は自ら自動車でのいるところへ足を運ぶ移動販売から始めた。そのうちブログから口コミ、地元のメディアから、全国のテレビ出演までに至り、今では売り上げ1億円を超える人気に。今後は店舗開拓だけではなく、自分のような母子家庭を応援する活動も始めているという。「コルネットを通じて、みんなが笑顔になる...なんて幸せなんだろう」と、いつも感謝の気持ち忘れずに日々進める高林さんに、今後も注目していきたい。

私は運がいい。好きなことはなんでもやる！

世の中にはツイている人、いわゆる運がいいといわれる人がいる。浜松市で飲食店「とろろや」を営む森口さんも運の良さで自稱する一人だ。22歳の時、よく当たると有名な占い師に「商売の星がある」と助言され、そのタイミングで買い手を探している飲食店があるという話が舞い込んできた。若さゆえの好奇心からか、知識も経験もないけれど彼女は即決し、経営者となった。その後、お店は大繁盛。市内に4店舗を展開し、2010年には外食クオリティサービスマ大会準優勝を受賞するまでに成長した。味が良いのはもちろん、接客、社員教育、経営スタイルまで

が注目され、飲食店のお手本的存在としてメディアに取り上げられることも多い。運がいい「本当にそれだけののだからか？話を聞いてみると、「自分だけの得にならぬよう、みんなの得を考える」「災いは良いことの前兆だ。逆に良い時は気を引き締めるなど、森口の哲学は数多い。才能があつたのか、運が良かったのか。それは定かでないが、彼女が自己哲学を持って、周囲の幸せを考えながら、常に前向きに生きている、ということは確かだ。「運がいいから大丈夫！」そう言い聞かせて頑張る気持ちがいい運を引き寄せる秘訣なのかもしれない。

22歳の若さで飲食店経営者になり、
大繁盛店を作った美人女将。



有限会社 森口 取締役社長

森口 愛さん

「とろろや」、「自然のこちそう きなこ」を浜松市内で4店舗経営。野菜ソムリエでもある。

とろろや 佐鳴台本店
☎053-448-1905 <http://www.tororoya.com/>

バイオ分野で未知の可能性を追求する 光る挑戦者。

「無駄」や「害」から生まれる新ビジネス。

光産業創成大学院大学に准教授として勤める太田万理さんは、光バイオ分野のエキスパート。放置竹林を資源に変える研究に参加し、話題となった。繁殖力が強く、竹害となっている竹林を利用することで環境問題を解決し、大きな産業を創る可能性を秘めた研究だ。同大学では、起業など実業界での実践活動に力を入れており、在学生・修了生・教員により、複数の企業が設立・経営されている。太田さんも今年3月、株式会社サクララボラトリーを設立。農産物から自然の色や香りを抽出する技術で、製品化を図っている。山に落ちていくみかん、使われていない香料、林業の低収入：製品化が実現すれば数々の

問題をクリアでき、物や人がうまく回るのでは？と考えたことが起業のきっかけ。近年、値が落ちていると言われる農産物も、新ビジネスとして成功するチャンスがある。研究のその先を、自分で考え実践できるのもこの大学に勤めるメリットだ。研究者、准教授、社長と三足のわらじを履く太田さんのスピリットとは一体何か？「研究とは分からないものを追求していくこと。だから新しいことにも意外と物怖じしないんです。」浜松は天気が良い、作物が豊富に育つ。男女共同参画に熱心で、みんなが応援してくれる。太田さんにとって恵まれた環境といえるこの街で、今日も新たな発見に向けて奮闘している。



株式会社サクラ・ラボラトリー代表取締役

太田 万理さん

兵庫県生まれ。光産業創成大学院大学
光バイオ分野 准教授 博士(水産科学)

光産業創成大学院大学

☎053-484-2501 <http://www.gpii.ac.jp/>

04

イメージは「個室」でなく、「大部屋」のフラメンコ。

情熱的で鬼気迫るような激しい踊りをクロージアップされがちなフラメンコだが、本場スペイン南部アンダルシア地方ではフラメンコ好きの家族や仲間が集まって楽しむもの。誰かが歌い始めれば、拍手とともにみんなが踊り出す。派手な衣装やカスターネットがなくても、スペインの日常にはフラメンコが溢れている。フラメンコ舞踊家の大塚友美さんは、このフラメンコと毎年5月に行われる浜松まつりに共通するスピリットを感じて二つを融合させた舞台を創り、好評を博した。浜松まつりでは初子(子ども)が生まれると、親戚や近所の人たちが集まり「やいしょ」の掛け声で誕生を祝い、成長を願う。二つの国の民衆の輪が溶け

合っていくのがこの舞台の見どころだ。芸術と呼ばれるものにはさまざまな表現方法があるが、大塚さんは一方的に観せるのではなく、演者と観客が互いに心を震わせる瞬間を大切にしている。「本物」を表現するということは「技を見せる」ということでなく、気持ちや伝わるように一生懸命踊ること。特別なことはせず、毎日家族のためにキッチンやお風呂を磨く。夕日を見て美しいと感動する。そんな普通の自分が一生懸命・精一杯踊る。すると不思議と客席と心が通じる瞬間が訪れるという。生きていることを表現することで、明日も生きようとする力になる。そんな思いを舞台から熱く、楽しく発信し続けてほしい。

「本物」を追求する熱き舞踊家。

ユミ 大塚 友美さん

静岡県浜松市生まれ。沙羅一栄に師事した後、1988年スペイン・セビリアに渡り、エル・ファルコー、フアナ・アマヤらに師事。1991年日本フラメンコ協会第一回新人公演において新人奨励賞を受賞。2009年「平成20年度浜松ゆかりの芸術家」として顕彰される。



アルサイトマ(ショー企画・問合せ)

☎090-4860-2704 <http://www1.odn.ne.jp/arsaytoma/>

05

株式会社ティ・エム・ワイ 代表取締役

伊藤 安子さん

静岡県浜松市生まれ。1996年創業、フランチャイズチェーンガリバーインターナショナルの加盟店としてガリバー住吉バイパス店をオープン。集客数・買い取り台数ともに、グループ内トップクラスの実績あり。



中古車のガリバー 浜松住吉バイパス店

☎0120-12-2699 http://221616.com/shop/p_22/G00071

OLから一転、驚異的な売上を達成したママさん社長。

明日輝くためには、今日「やらまいか」

車の販売・買取のガリバー。浜松住吉バイパス店を経営するのは株式会社ティ・エム・ワイ代表、伊藤安子さん。グループ内で女性が起業して経営を続けている店舗は、全国でもここ浜松住吉店のみ。2002年にはグループ内来店数全国1位、売り上げ全国3位の快挙を成し遂げた。伊藤さんが起業したのは、39歳のとき。離婚の後、この先の子育てと仕事をどう両立していくか思い悩んでいた。「車業界はまったくの素人。でもなにか通じるものを感じて、人生を賭けてみようと思ったんです。」という伊藤さん。素人が起業、というあまりに無謀な決断に周囲はとて

驚いたという。浜松地方の方言で「やらまいか」という言葉がある。これは「やつてやろう」「いっしょにやろう」という意味で、その精神は浜松市民の奥深くまで浸透し、この土地に根付いている。何かやろう、まずはやってみよう。伊藤さんもそんなやらいまいかスピリッツでこの事業を興し、今日まで支えてきた。今年度は社長業の傍ら、浜松商工会議所女性会の会長としても活躍。近年は働く女性も増え、当時の自分と同じように子育てと仕事の両立に苦しむ人たちも増えて来た。今後は、働く女性の環境や助け合えるコミュニティを作り、力になっていきたいという。

活気に満ちた若い力。破竹の進撃に期待。

bjリーグ2009〜2010年シーズン、悲願の初優勝を果たした浜松・東三河フェニックス。迫力のスピードで熱戦を繰り広げる試合の最中、会場を華やかに盛り上げてくれるのがファイヤーガールズだ。キレのある激しいダンス、寸分違わない鮮やかな振りつけ、そしてその眩しい笑顔に誰もが魅了される。しかし、そんな輝かしいパフォーマンスは、彼女たちの一途な努力の賜物にほかならない。メンバーの多くが、OLとして仕事を持つ女性たち。練習は週1回の合同練習のみだが、平日夜のほとんどを自主練習に費やしている。それぞれが動画を撮影して送信

し、PC上でチェックしあうという練習方法はデジタル社会ならではの画期的なアイデア。憧れの存在として舞台上に上がる彼女たちにとって、体力とスタイルをキープすることも重要なミッション。TVを見ていてもCM中には腹筋を、仕事でも力を使うような心がけ、毎日の食事にも気を配る。競技を応援するだけでなく、観客も元気にするチャリダー。観客のたくさん笑顔が彼女たちを突き動かしているのだろう。今後の目標はチームの2連覇はもちろん、最も印象に残ったチームへ与えられるベストパフォーマンス賞。さらに大きな夢に向かって、彼女たちの努力は続いていく。

チームも観客も元気にする
コートのマドンナ・チャリダー。

07



中村 綾さん(左)
只井 はるかさん(右)

静岡県浜松市生まれ。浜松・東三河フェニックスチアリーディングチーム「ファイヤーガールズ」として活躍する傍ら、日中はOL(中村さん)・保育士(只井さん)として勤務している。ファイヤーガールズへの入団はともに3年目。

浜松・東三河フェニックス
☎0533-81-2293 <http://www.bj-phoenix.com/>

08

みずの・くみこ さん

1997年こども能力開発教室ポップチャイルドを開校。2009年9月一般社団法人ぼっぶちやいどに移行。文部科学省「子どもの居場所事業」講師など幅広く活躍する。



社団法人 ぼっぶちやいど
☎053-456-0377 <http://park17.wakwak.com/~popchild/>

起業人として、地域人として…
創造と改革に挑戦し続ける「浜松の母」。

子どもたちの可能性を育み、新しい人と地域を作る。

子どもの能力開発と子育ての総合サポートを手がける社団法人ぼっぶちやいど。理事長を務める水野さんは幼稚園教諭を経て、幼児教育の先進的教育機関・知能研究所に所属、インストラクターの資格を取得後、個人事業として「ぼっぶちやいど」を設立した。現在、体験型の講演・研修が話題となり、全国各地を駆け回っている。事業の主体は独自のプログラムで行う子どもたちの能力開発。他、発達障がい児の個人指導自立支援、育児研修、教材開発など、幅広く子育てをサポートしている。「どんな子どもも可能性は無尽大、能力を引き出す環境を作ることが大人の役割なのです」と、水野さん。すべて

の子どもたちに宿る未来の可能性を引き出し、地域や世の中を発展させる。人づくりと街づくり、それこそが水野さんの目指すテーマだ。近年では心理学の分野から、子育てをする親や部下を持つ管理職者向けのプログラムにも力を入れている。起業から15年、幼稚園教諭として子どもにも携わってか、25年の時が過ぎた。当時赤ちゃんだった彼らが大人になり、親になり、今では仕事で関わることも。水野さんにとって何にも代えがたい喜びだ。現場と講演を掛け持ちしながら多忙な日々を送る水野さん。その母のような深い愛情と信念に、子どもだけでなく私たちがまた育てられている。

美しさの秘訣は、「人生を楽しむこと」にあった。

30〜50代の主婦たちが美と知性を競う「ミセス日本グランプリ2009」で40代部門グランプリを受賞した、増田秀美さん。2児の母でもあり、野菜の品種改良のエキスパート増田採種場の専務取締役でもある。愛する家族の健康や自分の美容のために「食」はカラダに良いモノでないといけない。「食」を極めれば、栽培を見たくなる！その精神で全国の生産者に自ら会いに行き、常に情報交換をしたり、品種開発したものを指導したりしているそう。そして、スーパーや百貨店に卸したり、いろいろな人と出会うということ。美しさの秘訣なのだろう。

さらに、子どもの行事には、全て夫婦一緒に関わり、仕事と家庭を楽しみながら両立している。彼女の美しさは、単に外見だけでなく、日々の取り組みや生活からにじみ出る魅力にあるのだろう。コンテストの際も、もちろん外見美にも気をつかったが、無理して若作りをするのではなく、40代らしい美しさや生き方、社会的活動をアピールしたという。人と比較するのではなく、今の自分の環境や状況でどうやって人生を楽しんでいくか、を常に考え、自分にたくさん喜びを与えてあげることが、心の健康とにじみ出る美しさの秘訣なのだろう。

新野菜「プチヴェール」の名付け親である、才色兼備なミセス日本。

プチヴェールの名付け親
増田 秀美 さん
2009ミセス日本グランプリ
株式会社増田採種場 専務取締役

09



株式会社 増田採種場
☎0120-831-050 <http://www.masudaseed.com/>